令 和 6 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立飯能高等学校南校舎 ）

目指す学校像	校舎訓「礼儀・誠実・協力」のもと、スポーツや文化的活動と勉学に励む元気で人間性豊かな生徒を育てる、地域に信頼される学校

達成度			
	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不 十 分	（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	１授業改善や学習評価の改善等を進め、基礎学力の定着と向上及び主体的に学ぶ力を伸長する。 ２きめ細かな生徒指導と体験的な活動やスポーツ活動等を充実させ、礼節と自主性・自律性を備えた豊かな心を育む。 ３計画的な進路指導を充実させ、早い段階から進路意識をつけさせるとともに、主体的に進路実現が果たせる力を育成する。 ４保護者・地域との連携・協力を積極的に進め、学校情報を広く発信する。

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

出席者			
	学校関係者	7	名
	生徒	6	名
	事務局（教職員）	１３	名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（1月２１日 現在）			実施日令和７年２月１０ 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	基礎学力不足のため授業を十分に理解できない生徒と進学希望の生徒が混在している。学力差が大きいため、個に応じた学習指導が必要である。 新学習指導要領が始まって３年目となる。新しい授業や観点別評価の方法など、実践を踏まえた具体的な取り組みを職員全体で共有しさらに推し進める必要がある。	●基礎学力の定着･向上と学習習慣を確立するよう改善する。	①教務・各教科担当・担任が連携し、予習・宿題・復習など、学習習慣の確立に向けた家庭学習時間の増加の働きかけを組織的に行う。 ②各教科での ICT の積極的な活用や小テスト実施等により基礎学力の定着を図る。 ③生徒への学習アンケートを年３回実施し、授業への取り組み状況を把握、担任･教科へフィードバックし個に応じた指導に生かす。	①組織的な働きかけがなされ、家庭学習時間が増加したか。 ②昨年度と比較して学期毎の欠点保有者率は減少したか。 ③学習アンケート等により生徒個々の授業への取り組み状況を把握し、学習指導環境の改善に繋げる事ができたか。	①「家庭学習習慣確立強化月間」を6月･11月に設定した。学習アンケートの比較では「家庭学習の時間」は10～30分が減少し30分～1hが微増となった。各教科での「宿題のICT化」も進み取り組みやすさも加わって生徒の反応は概ね良好であった。 ②欠点保有率は1学期で15→16％(1ポイント増)、2学期で11→14％(3ポイント増)となったが1人あたりの欠点保有数は減少し深刻な状況の生徒数は減少した。 ③学習アンケートの内容の大幅な改訂、実施時期の工夫により、生徒の授業への取り組み状況をより詳細に把握し、担任や教科へ戻して指導に生かしてもらうことができた。	A		・生徒の学習意欲の向上がみられ、また、欠点保有の深刻な生徒も減少したことを評価したい。 ・最後の生徒たちが全員無事に卒業できるよう引き続き指導をお願いしたい。 ・家庭学習習慣確立強化月間において、各教科での課題形式のＩＣＴ化が良好であったことは、今後の家庭学習に良い影響となると考える。 ・３年生だけが残った本年度において、少ない教職員が組織として機能(本校との連携密により)し、取り組んだ成果が見えた
		●新学習指導要領に基づいた授業改善における各教科での取り組みの共有化を図る。	①各教科の相互授業公開や校内研修会の実施を促し、新しい学びに対する授業改善の取り組みを共有する。 ②新学習指導要領における観点別評価等の職員研修会を開いて全教職員の共通理解をさらに深める。 ③新しい学習評価にあわせた成績評価について引き続き検討し、校務支援システムとの連携・整備を行う。	①相互授業公開や校内研修会を実施することができたか。 ②研修会後に職員アンケートを実施、新学習指導要領ならびに観点別評価等の共通理解を図ることができたか。 ③新しい学習評価に合わせた成績評価と校務支援システムとの連携・整備は行えたか。	①各教科で評価における観点別評価等の問題点の洗い出しや共有等を行い、職員研修会でその改善策等の意見交換を行うことができた。 ②研修会を11月に実施した。教員間で新学習指導要領ならびに観点別評価等の共通理解を図ることができた。 ③校務支援システムの更新の意見聴取の際、改善要求を提出した。	A		
2	全職員による積極的な生徒指導により、身だしなみの乱れは減り、生徒に落着きがでてきた。継続した指導により通学路での苦情は減少している。一方で、SNSの普及にともなうコミュニケーション能力不足による人間関係トラブルは未だ多い現状である。基本的な生活習慣の確立、コミュニケーション能力の向上を促しSNSの使い方についても指導していく必要がある。成人年齢の引き下げに伴い、今まで以上にルールや規則を守り、集団生活の中で、社会性を発揮できる生徒を育成しなければならない。	●生徒の自主自立の精神を重んじ基本的な生活習慣の確立を徹底し、公共性、規範意識豊かな心を育成する。	①挨拶指導を徹底する。 ②登下校ルールの厳守を浸透させる（二人乗り、イヤホン、傘さし運転並列歩行、歩きスマホ等）。 ③授業をしっかり受ける習慣をみにつけさせる。 ④制服を正しく着用させる（特にスカート、スラックス、靴下等）。 ⑤ネット社会における規範意識を育てるための研修会を実施する。 ⑥免許取得要項の呼びかけを増やし、浸透させる。	①しっかり挨拶ができているか。 ②登下校における苦情や指導件数は減少したか。 ③チャイム着席がしっかりできているか。 ④教員の声かけが浸透し服装が整っているか。 ⑤SNSによる問題行動が減少したかどうか。 ⑥免許取得の書類が適切に提出されているか。	①生徒の挨拶習慣は身についている。 ②指導件数は０件である。 ③チャイム着席指導に取り組み、ほとんどの生徒に習慣が見についている。 ④全体を通じて違反は減少した。 ⑤正しい使い方について引き続き生徒の情報モラルを育てていく指導、家庭との連携が必要である。 ⑥１９件申請がありすべて適切に提出されている。家庭研修期間を控えているため、引き続き家庭との連携に努める。	A		・生徒の公共性や規範に対する意識付けが十分になされていると考える。 ・挨拶習慣が身につき、指導件数は０件であり、生徒の意識が向上され、目標は達成されたと判断できる。 ・情報モラルの育成について、家庭を巻き込んで行っていることは評価したい。
		●学校行事･部活動などに積極的に参加できる生徒を育成する。	①各行事を生徒主体で実施できるよう、時程・ルール・役割分担等を明確にし、生徒・教員への周知徹底を図る。 ②部活動所属生徒に対し、個人の状況に合わせた適切な指導を行う。 ③部活動に関して、お互いにより良い関係性を築くため調整を必要に応じて行う。	①各行事の時程・ルール・役割分担について生徒の意見を尊重し生徒と教員が共通認識を進行できたか。行事が感染拡大防止の観点から安全に運営されたか。 ②部活動において生徒の活躍の場を作ることができたか。 ③必要に応じて、部活動に関する調整がなされたか	①生徒会・各委員会・教員が連携をとり、新入生歓迎会や球技大会・文化祭などを安全に実施することができた。行事における事故数及び感染者数は０人で具体的方策を適切に取ることができた。 ②１１部活計３９名の生徒は継続して取り組み、充実した活動を展開した。 ③運動部８団体が合同で活動し、学校として大きな混乱が起きることなく終えることができた。	A		・教員の方々と生徒会、委員会が連携され、新入生歓迎会、文化祭等、積極的に取り組まれたことが感じられた。 ・生徒会役員の方々の受け答えを聞きながら豊かな心を持った生徒たちが育っていることを感じた。
3	将来への展望や目的意識を十分に持てていない生徒が、少なからず見られる。充実した高校生活を送らせるために、目的意識を持たせ、自己省察を促す指導が必要である。また保護者も含めた進路意識の醸成が必要である。	●進路指導の組織的な取り組みを充実する。	①年間計画を綿密に立て、計画的・継続的かつ組織的に実施する。 ②外部講師や進路業者等との連携を密にするとともに、各担任が個々の生徒に個別具体的な指導ができるように、研修会や学年会等を通して具体的に伝える工夫をする。	①年間計画に基づく進路指導は実施できたか。 ②適切な進路選択ができたか。就職内定状況は良好か。	①進路ガイダンスを合計22回(就11、進6、公5)実施した。内容は生徒の実情に合わせて柔軟に変更した。現時点での進路決定率は約93%である。 ②学年の教員団や外部講師の協力を得て面接指導を3回実施した。民間就職の内定率は100%を達成した。	A		・進路指導の組織的な取組が十分になされていると考える。 ・先生方の指導により進路については、よい結果が得られたと判断する。 ・進路ガイダンスの成果もあり、民間就職率100%、進路決定率(現在)93%の結果は、立派である。 ・先生方の努力と生徒たちの頑張りの賜物と感じる。
		●進路意識を向上させ、希望の実現を図る。	①保護者面談期間に、保護者参加型の進路相談会を実施し、保護者と進路関係の情報共有を密にする。 ②進路見学会等の進路行事を充実させ、各種ガイダンスにおける必要な情報の提供方法を工夫する。	①生徒が保護者と進路に関わる相談等を密に行えたか。保護者の進路指導に対する満足度は高いか。 ②早い段階からの進路意識の向上がみられたか。	①1学期に進路個別相談を実施。進路指導部が生徒にアドバイスできる体制を置いた。３学期には卒業後を見据えた講義を外部講師に依頼している。また、大学一般選抜の生徒へのサポートも継続する。 ②今年度より大短、専門のガイダンスを統合し、進学ガイダンスを新設した。学校見学の指導や課題設定を見直し、より統一的な指導を行った。	A		
4	飯能高校南校舎として、必要に応じて本校舎の生徒募集をサポートしていくこととなる。 また、生徒募集の有無にかかわらず、市内中学生の進路決定に資する活動には積極的に協力していく必要がある。	●本校舎の生徒募集行事をサポートする。	①本校舎の中高連携担当との連絡を密にし、迅速な情報共有を行うとともに、本校舎からの要請に応じた協力体制を構築する。	①本校舎の主催する説明会などの生徒募集行事に協力することができたか。	①学校説明会等の生徒募集行事の実施について情報を共有し、７月、８月、１０月、１２月、１月の説明会に計１０名の教員で協力することができた。	A		・本校舎との連携をつうじて、先生方、生徒会の皆さん、保護者が一丸となり様々な事業に対して、取り組まれた情熱が感じられた。
		●市内中学生の進路決定に資する取組を行う。	①飯能市出前授業において、特に生徒数の多い中学校に対して協力を行う。	①飯能市出前授業において本校舎と連携して講座提供ができたか。	②３講座の準備はあったが、必要とされる講座数を上回っていたため、２講座（国語、英語）の協力を行った。	A		・生徒募集がない状況においても、市内中学生のために出張授業に協力する先生方の姿勢や熱意が素晴らしいと感じた。